

203
フ
4

五江年表

一

四

武江年表卷之四

正徳元年 辛卯 五月七日改元

正月廿日未刻芝土^{ついで}釜^{かま}町^{まち} 本名殿倉町といふよりお火あか風小漣ひ新堀芝^あ有店海^うを^まま^て武家町^て庭^とも^もお焚焼^をお刻^結了^す

○正月十九日新和泉町よりお火乾風烈々々靈巖^あ汚^りふ^り々々^々
箱又^あ焼^れ共^に下^り又^も十町^計り^焼了^す ○正月廿五日田光大師五百年忌あり 東漸^あ大師^の後^号を^ぬふ ○二月江戸州土山田村^に將軍^の像^を造^らせ^りて^置け^り

○二月^{去^るむね}正月^の末^に池^の辺^によりお火あか風烈々々延焼^し万^家不^及なり^し 折^り焼^れ 東^に不^及

○三月十五日より五月まで橋場^に総^てお水^をた^りて梅^は丸^州春^泥 本^母ち^縁起^りす^れば^ハ 七^百世^五年^{あり}



○正月羽田要清就生院小森才天初法有る家小森一
其像ことり小

○正月五日より六月廿日までに氷代もあつて房州清流も空虚

○正月廿日夏中より日向院にて甲戌八月市場不初を定帳

この時おまき橋を結松屋三方恵との方友よりめて花巻子とて製し一浦ふりぬ
系務あま子とのふりぬあまの人のえをうりてききより一むて割しけるよりぬむむら
はくともいふもつむきよりと長尾が奴の海はく
はくともいふと世より清流不見えより

○七月西より札改め新吉原大門口の言札を改め

○八月にッ宝銀通用を下まる○八月九日大風

○九月十八日おちあひ落合村暴雲より然厄福厄のた徳普人の
知り所ありて小畧に

○今年後辺赤菴率百三十才
大塚宛○二橋稻荷社にて今年より

○正月七夜法より中平を改め始むはるは府社界記
おまきよりあせり

○十月朔鮮人來聘正徳朝養徳副使任守幹
本誓ありて川引より今春より
正徳朝養徳副使任守幹
本誓ありて川引より今春より

と改め新井白石先ず宝徳堂を中韓人のりとしはるは府社界記
筆法を朝養徳輯録して江実筆潭といふ字本一冊あり幸外正徳十一月五日在
附白石源若英新井氏
本訪

○十一月廿八日親鸞上人に百九十年忌法會

○十二月又日祐天上人坊より恒蔵小令せり

○十二月十一日申刻連雀町よりお火乾の風烈しく通町本銀町本

町石町に丁目まであつて中橋端まで一石橋日本橋焼屋雲出處

清まで焼校同日夜宮刻火焼了梅のふは時連雀丁
ハ次田町讀小あり

正徳二年 壬辰 名願言孫新八後系
八杉古町妙短小尊也

○正月十一日一説小同三月
正月十日是云凡卯馬知祥師寂初必言林より小尊也
曹洞の智藏あり

○日本橋江戸橋のろ度小流と改る○二月白石寺おちあひ
紅毛人乃

後福小のりて同對の事あり

○二月八日海軍より存研は同日を境として改定

○三月八日世還若松改訂も終る

○七月廿四日水戸府林師忠氏の室長山雲の卒 臣十二女 弱安

寺子書本堂本一七三三
年山紀述時人信末 ○九月迄宝永通閉止

○通令于同日以後各日木の井七歳迄を全額月を經て今

年井田を獲るに東郷の韓人相同し海軍銀を據今年十月

亦井田を獲るに綱編を編む

心徳三年癸巳 九月國

○正月廿七日將野宮朴常法卒 士守 孫志道

○二月二日三之坂の氷を掃せしむ

○二月本松町山村長を文世若少に脚のねを經て與る

○二月晦日信仲自是死後又舍利の塔を築く

○五月二日儒師大高甚山卒 名孝昭 孫法林 曾孫長谷守兼

○五月廿九日の夜密光新觀に於ける塔に火を燒く

○九月廿二日小谷より大平宿海軍邊境に

駈し ○今年海軍二十之間書焼亡同七年再録す

同四年 甲午

○二月本松町六丁目山村長を文世若少に脚のねを經て與る 此の附録優生高彩其政八女 高木福せらるの語也

○三月廿二日信仲自是死後又舍利の塔を築く 此の附録優生高彩其政八女 高木福せらるの語也

○四月廿二日信仲自是死後又舍利の塔を築く 此の附録優生高彩其政八女 高木福せらるの語也

○五月廿二日信仲自是死後又舍利の塔を築く 此の附録優生高彩其政八女 高木福せらるの語也

○五月新金銀法吹替 ○五月二日品川本流と沖之原院治法和

尚寂 石段院等より ○八月六日より十五日まで増上寺山内常照院を

号二光二号如來宗塔 ○徳國風塵 ○八月六日医原本下橋林軍 九号の久麻

○九月廿二日根津権現祭終江戸町中々練持あり 廿一日あり一雨未降

今年小まゝ一まゝ一止り番敷五番番町敷百五十四丁なり一止り時番付曲亭

漫等より一まゝ一止り番敷五番番町敷百五十四丁なり一止り時番付曲亭

熱門より茅町通西川家西根井田田形裏門通り島平橋入井田橋より護持院

○十一月琉球人東渡 正使与那城王子 令武王子

○十一月に密銀を以て新上銀小吹替あり

○十一月十一日夜光物屋己より成吉へ元生喜雷の如く震動あり

心徳 乙未 乙未

二月廿一日儒作深見訶亭率 名進一名永常 外込心定院小率

○三月廿七日湯島村八十才あり尚齒令あり列座の案 七才 志愛随翁 百才

小森岡森 百二十 右結字見 百八 石寺宗寺 九十 下条七玄清 九十 兼人 七才

谷口一雲 九十 忌中事之盛 八十

○四月日光山百年御神忌法法会あり

○心徳より享保よりあまて中橋度小治まで盆中夜子入あり

とりの集り踊りをとる ○十月十七日御人調和率 八十才西 本形中率

○十二月晦日夜半計り小鈴の口辺よりかきりて丸盤橋法門内

教齊屋橋法門内まで中橋より芝は橋までの町屋本挽町よりあり

翌二心月元日夕々々焼火

此年間記事

角力取松風遊を清能忠之巻津大園とあり正徳二年録日記
鬼子母非初(歌)を収む○能入室女(室)賀国(山内)横樹二十六
株を栽る(寺)仙橋と号す

○深井極木(屋)作(木)樹(勢)河(瀨)河(瀨)を多(く)育(い)く
本(木)も(ま)ま(り)庭(木)植(ち)て(あ)り(享)保(保)の(以)て(り)百(種)の(楓)を(集)め(る)事(を)推(刻)し(ま)す(地)務(務)長(中)花(林)抄(本)系(系)花(蔭)繪(等)の(編)集(集)あり(梓)木(え)り(て)世(世)に(以)て(ま)す

○浮世珍(匠)美(川)匠(宣)正(徳)中(七)十(餘)才(木)一(て)終(ま)り
懐(月)堂(号)安(号)七(株)係(七)こ(の)以(以)て(ま)す

○小舟町(天)主(系)の時(山)門(の)造(り)物(大)根(源)運(等)り(さ)る(事)正(徳)中
と(り)始(り)今(今)も(ま)ま(り)に
小(舟)町(天)主(の)庄(張)取(む)り(ハ)小(借)る(町)木(あり)一(と)正(徳)中(疫)癘(は)ま(り)時(小)借(る)所(の)庄(張)取(り)針(雲)を(さ)り(と)土(人)の(口)碑(小)跡(り)又(藍)川(系)る(編)の(禪)法(あり)ま(り)一(と)せ(り)

○長江(披)砂(云)小(石)川(古)殿(孫)癘(也)稻(新)社(八)室(永)中(私)田(倉)所(用)

慶安(年)於(之)大(前)氏(後)居(の時)系(於)吉(田)家(の)雜(堂)拵(刀)蘇(川)の
癘(也)稻(新)社(大)花(氏)の(鑑)也(と)一(と)勅(法)也(と)正(徳)中(法)用(慶)安
一(流)引(拂)せ(と)ま(り)白(山)庄(殿)智(地)を(下)さ(ま)一(と)時(稻)新(社)白(山)
一(後)一(け)ら(り)奇(瑞)の(事)あり(て)伝(作)の(り)の(増)け(り)一(と)後(之)さ(る)一(と)
引(換)一(け)ら(り)と(あり)
○正(徳)中(慶)安(の)古(系)木(あり)一(と)と(慶)安(と)ま(り)一(と)め(り)正(徳)中(の)以(藥)地
小(並)系(系)乃(乃)具(持)沖(也)美(と)り(美)作(り)也(一)と(必)橋(在)岸(山)
本(居)を(系)具(無)あ(り)て(慶)安(始)り(一)と(一)世(本)終(終)一(と)り

享保(元)年(丙)申 二月(朔) 七月(朔)日(改)元
正月(元)日(去)年(隆)夜(の)大(火) 烏(帽)子(直)系(の)事(を)記(す)人(形)成(の)由(を)記(す)の(り)
初(ち)ち(入)丸(を)て(限)額(を)一(と)り 十一日(又)池(の)堀(と)り(火)後(一)と(新)田(邊)本(町)

石町日本橋呉家一由近延焼多々獄舎もかけつる事一折焚
柴の記も見えずなり○同十八日浅草寺にけ西辺より火入り
本所深川多々焼亡に

○半蔵寺門外橋法門清名所古木のこゝへ通流をあらわす

○八月十五日能人山に素堂寺七十五才弱以
岩澤院寺葬

○十一月廿九日夜光物部山○十二月廿七日儒所本下道田寺名えり
号菊本

麻布屋敷
寺小葬に ○折焚柴の記新井白雲寺
編写本

享保二年 丁酉

雅筵碎野集 丁酉の〜後句

唐鶴河下りともありてこよ所や柴乃事 正親町公通に

○正月廿二日未刻小石川子坊根井が幸及より火湯一由神田

後持院いちぢんの莊ちぢん新田橋法門内銀治橋法門まで此庄の藩邸やいさが

宇通町八丁塙築地まで武家町まで影〜焼亡あり

○災後後持院を小日向こひなたの末小橋さむ〜その跡并維子橋亦

武家屋敷跡地ちんちとあり○正月廿二日能人北屋浮世じふ十
ハオ年

小日向金剛
寺小葬に ○二月十一日能人下村堤亭年深川法橋寺中
南院小葬に

○六月後炮海船松町より約込家士控現へ花万度とさる事

今年よりさる事○七月後炮海法蓮院止

○八月新金巻せんきん一有乾金通用止三年限り
西修止

○八月十六日大風雨家屋を損す

○十二月十二日新田橋大工町より火日本橋中まで焼矢

○同廿八日火さる事牛込山伏町より火大藏町に谷芝田町まで

燒亡○十二月 日田中丘陽率 我加川藩の西小向村妙光寺に焚く冬と春に
冠若老人と云一年は勾川の流るを流す如あり
後て臣下の列も
如くありしと云

享保三年 戊戌 十月

其より停概と申宮と申りありて諸寺より群集する事難し

○二月十五日深川本郷より皇缺地流る今日よりありあり

皇歳群集一の終りの終ひをうらむより江戸妙子あり

○二月廿二日備原園井黄陵率 名孝祖 称素を命
三痛在禪より小葉葉を

○五月朔日五高兵衛町より火通町八丁堀辺築地まで焼亡

○五月十五日備原酒家新率 名弘 称素を命
中見樹院下葉葉

○六月七日日本提儀系抗法を認むあり

○六月十八日銀人其母亭に就率 六十七才
本形より葉

○七月十五日祐天上人月思不寂 八十二才 享保中二世祐海上人

送跡下寺を達多祐天寺といふ

○八月廿六日備原之宅親潤率 并九十才
流若より葉

○日代月市村作之恵地室中道世一率所不自院院とて寺を

軍制一被阿と号し短しけり今享保十月十日と十五才あり

大波止をさすなり ○十月廿日將時探儀を改率

○十月末番屋六百人不定る ○同十月新令根引番始る

○十一月琉球人來聘 心後
越末子 ○十二月五日小石川白山社敷焼

後事寺馬田家の餅店に傳法院
傳心より後事師の名をのぞく

同日 年 己亥

正月元日箇の時日焼 二才 ○二月十二日奉町多戸本野田焼失物

十日日あかりて漸く結ぶ ○二月廿二日聖徳太子の五百奉出忌

○三月十八日より廿月廿八日まで浅草寺観世音菩薩 貞享に奉り
世三年因あり

○四月十三日安後東野率 号本壁社に奉り二十七才
あり協協福喜院に奉り

○江戸町火消いのは組よりまる ○五月浅草寺本堂修葺十万人

構始る 日六奉九月六
りては修葺 ○浅草法蓮寺の第六天社今年災小罹り今の

地へうつる ○九月朝鮮人來聘 正使供致中副使黄瑞後奉李明彦等
あり孫右衛門東本村も 以朝鮮人曲るを

事あるを因て祖徳寺に請を
濟せり此中の文集小あり ○九月に日 韓人遣
魚の内へ 幸町築院をよりお火奉八丁

塔辺野焼 ○十月新吉原の町奉庭又七と云りの赤川宿の町人をうへ

らひ津敷山の上りには操芝居を元立ち 辰堂八郎を場名敷あり
同十八のりこの日のもありせ

分を渡り
ありて止む ○十二月九日能人天鼓挑降率 号五五宿新吉町
新光郎より奉り

享保五年 庚子

二月廿五日堺西郡大お輝大聖寺焼亡 おわさか

○三月廿七日午羊刻流石町よりおさ南風烈々々をり町日本橋

を過つる町を喰町を越邪田辺和泉橋下巻上野坂本合杉其の端

をり流る ○上野二五門法蓮寺

○七月廿二日儒所中野持操率 五十に方名延善
深川要津より奉り

○八月園東波あり ○八月町火消の纏りより組の方敷を記し

長七尺の鳴流を中又提を記し おまて
は此の纏を副由
浪の流をまきま

解小流より流れ流し
此形を赤く糸纏を車 ○八月十八日儒所新岡祐森率 祐森平
合平の男 ○九月に日大風

○九月廿一日白山権現を祀り子所よりか一練杵を祀り 中絶

○今年冬冷泉中納公為鑑法皇向あり時あり女伝遍法皇

ありてありてあり

○洞房淨室法寫本

唐司乃如赤編
板中の元文三年之

○菅原氏鑑六冊法

古の古山居士
撰所也とあり

享保六年 辛丑 七月

正月八日昼に時辰後町よりお火あふれ大風通き丁目より京橋
本材本町八丁堀本挽町後炮海築地靈巖岩所銀町まで焼く

○二月二日辰下刻之河町に丁目裏町よりお火一とて神田を平谷
上野江門焼渡り系古町二と右まで焼亡

○二月四日己刻之身込由納戸町よりお火小日向小石川辺一系小焼く
白山の辺より二勝もあり日暮里まで焼く此時傳通院へ逃入焼
死する者二百八拾餘人とも一基の堀きま
た念仏あり 築土八幡宮白山社も此時
焼く傳通院災後殿堂僧房法續未恙く活再建あり

○同寺前より一と火消を安小川町へ引くことあり

○二月十五日あまのり金剛二柳川政次率

柳川の
祖あり

○二月廿日水府後由信吉岡林彦率

八十七才信吉大娘と云葉は義子
信吉享保十年己九月率せり

○二月十二日水府後信長森尚操率

号儼整

○二月法社の祭禮の時屋敷と名つけたる物をあはせしは信長あり

○五月神田橋法門系不於之古林見宜醫者講法始法医師
種あり

○六月十二日一廿七日
とあり茶人懸宗知率

号五家子不名度連と
中梅雲院小茶師

○書物圖定なるあり○六月二日傳師腹於保庸率

保庸五而号實之師
若行谷種雲と云葉は

○七月廿一日魏町八丁目通系ら妻に十位女食所同率小痛舎利
をかひ新町小おのんて又一顆をかひ翌年壬寅六月朔日おのんて黄昏

又一顆をかひとて小室鏡小奉以里中の人皆焼く親とて

る信以祖傳先世抄本を讀了て舍利の元一篇をあらせり

○秋宮在洛あり ○十月金銀引替

○十月湯島まき丁月後をいふ湯島といふ名に後の大比賣を六本

○十二月十日二河町よりお火通町筋本

材木町坂本町南芝場町八丁堀後池沼染地まで敷焼

○十二月廿七日後後氏十一代通事率

○南雷別志之まゝと穴といふ所の古金を堀りて穴なりまみりまぶ

の事あり享保六年の以黄金のかり流砂をいふまゝの

はらぬなりとて堀りてありぬ

○芝永井町岩町富山町橋上町の火除地となり井田の地を

あらる ○あぶま流記刊行

享保七年 壬寅

二月十五日より八月十五日まで一橋町の御遊覧を

のりより事始り ○二月青松を元より橋上を事り赤坂小

橋と改り ○二月十八日より七日の月後事り親世を事り

○五月十九日儒原中根桂葉率

○六月市仲多智原通の論新義をあらり兒輩の事を書て

あらり松小令せり

○七月江戸中葉新同屋廿五人あ定り

○八月八月儒原原見玄岱率

○十月千川上あ青山之田の上あを止り

○十二月六日井田新銀町よりお火通井田一帯を焼く

○小石川清草庵を小養中野建十二月より貧困の病を治めり
草解をよめり 此所の板を割別板といひしころより後土居病人板と
り起立人侍通院高直居の医師小川守邦と云ふ人あり
享保八年 癸卯

二月十六日赤坂傳馬町よりお火病水風烈なり其病の久保進焼了

武蔵方町を頼焼駈り ○二月十五日より三日の男中村劫之助

芝居百奉の奉相云新新改定大敷懐大名人等々を具行に

○二月廿二日中本玄龍率 七十四才文山の兄能出あり
坊上より津屋運院小森也

○二月廿九日能入志村玄倫率 六十三才

○二月十九日折奉人唐千奉忌 二月廿日首領本村社一
巨匠折奉大照部と信をあり

○元禄銀室水銀中銀、二ツ室銀屋、室銀通用止

○五月十日新井明卿率 白石二男 林信房後家
被其の中より連ちお其

○六月湯原保井秋水率 八十二才

○七月廿六日池上本門より奉堂再建入佛供養 宝永年中焼亡の後
廿二世日没上人再真

○八月近在おあり ○音羽町九丁目青柳町カカ池取拂おの時隠

賣女あり 野とありて時や
音羽のころと法 ○十月十日湯崎天満文造管下 時

○十二月五日身込よりお火市谷店内青町辺焼亡

○十二月十日狩野洞春福伝率

同九年 甲辰 己月室

正月十二日英一傑率 七十一才二平板兼教中取重院小藤以輝世
お知るる後世のこの色とりも有てや不所事の月

○正月廿九日お火町よりお火市街の病月町在の本板町より焼了

口出門焼了しつたの後津再建也 本板町お火消
屋敷に在り

○病久保八幡文を奉の災後修造成去院造不あり

- 甲府河城着始る ○二月田詳 牟那ノ之ノ火ノ樂ノ化ノ燒ノ元
- 六月七日將此水叔之信率六十才
- 六月廿五日其部毛隊長廿又八羽之羽一也見之尾の細きこと ○八月津流赤丸之羽八人定之
- 十一月廿一日郷人之世の立志率侍系之率 戸幕以
- 室和通曆刊行系中根 之圭 編

享保十年 乙巳

- 二月十日青山之保町より水森坂に谷而谷年込大塚並羽小石川家鴨羽込年中宿舎に火燒元
- 二月五日五百羅傳堂再建此寺成枕是都立和國元福の業の 再建此記後也而本不
- 二月十九日郷人關石亭社之率神世 見一書見也此也の元子

- 五月十九日室儀新井同宗生率六十九才名譽 宗右衛門 康業被孝子之禮と宗業
- 六月廿二日古筆衣行音率廿二才
- 七月廿一日保強陽儀一寸見行赤記厚二才天儀長屋赤而西本朝平陰 古業儀に於て之の碑本三石之重記
- 九月二日室長屋赤記大屋赤の少く子以之を長屋赤の少く 以保川島心町小居一赤板之号以
- 十月大別店吹箱元福大別店元福又此吹箱あり
- 今年長喜の立志賀隨儀百才 八才 小石川島心町二才 保儀赤記 百才
- 石井惣集百才 沼岡保流百才 水時儀中九才 樂田十重九才
- 中家長喜百才

同十一年 丙午

- 二月七日郷人室長屋赤記号繁長加繁神上 表書古と不業以
- 二月廿四日郷人室女率六十二才利繁上之部後上号 長喜子中合此書儀此業以

○二月廿九日儒作土犯黙齋率 自親居士と号し 市台長と号す小齋

○今年五穀豊饒あり ○回向院にて法華宗 赤徳 天照山大吉寺

朝日如来密帳 ○五月浅草小揚の理年樹元と人の光母不仕く

奇特の事ありて慶賞をのぞく 崎人侍奉山 紀伊守あり

○六月廿日雛人の間沾池率 六十二才男合款量 浅草樹元と小齋

○今年より十七年まで深川十万坪小旗を請渡あり 元文元年五月も 同而して請渡あり

○十一月十八日大道寺友山翁尚齒令 志賀隨翁と麻六人の 翁令とるく之姓を兼得

享保十二年 丁未 正月宣

二月朔日夜半時光物来たり 初花霞の如く鳴る

○本撰町来女ら来りて切あたり

○南田川本母と梅若九七百五十年忌密帳 三月十五日 たり無誤

○素心庵徳集法 徳長坊友山翁八十才 編翌年追加成る

○五月十二日俳人宮田百里率 号雷六十二才多田中く一列萬東深小齋を 群世の白 死て並てとるく一死月を思ふとるく

比句をる不稿してとるる墨花重信文山の書あり 詩人雅藝の百里より男ありは風 ありて明を多のり一室居七年七月六月お及謙ら田若七中松海波小齋より

○六月上旬より本別齋取古非宮城角へ常陸必阿徳大杉大齋非

花梅ありとて芝蔴群集一万余家表結物を出し 芝蔴あり

搦の密教を忌みて系指を程むく 此本を信く

○釜原定林率 月日 未詳 ○十一月七日新林本町白子倉店三郎養子

又四郎妻のまをる代忠八刑せしむ ふん世人の 勿りあり

○十二月十日表二番町よりかき 穢町永田町鹿り実虎の由門久保

町ありて中橋上より表門甚徳をまて焼亡是より穢町より通り

此物と成り ○十二月十日俳人志邑佳風率 巳年四月 約止 大雄と小齋也

享保十三年 戊申

正月五日清氷如おろ奉

七十二次清氷台訪ちふ葉氏におおの橋由町小橋に御舟を「こ」よりの細子をよくはせ存置るに當り今ふ

裁りては子守を承け甄流と号し老母不孝あり又父不似て細く不孝ありし中難後集とつる事終ふあり字平次六郎幸三平六月廿九日没す

○同六日狩野如川周信奉 六十九才

○正月十六日夜光の物あり ○正月十九日信儒校中廻津止在奉

六十才名養々孫孫を為す
同日長松とけし葉也

○日暮雲深光と宝山作徳者の侍舟を求て

八重を定む井上通徳の序ふあり八重の

鏡波岩陰 星發發雪 霜哇落
後江夜麻 隅田秋月 利根遠航

暮莊烟雨 神祠老松 雲たより 又東西の
十二宗のつたきこり 依林香個の權あり

○二月十六日橋本町よりおひ小川町一ッ橋法門亦裁ありと一音
於燒 ○二月廿二日家山宗根

○二月廿二日橋本板倉渡軒奉

雜司谷法僧も不葉は板倉
板倉の墓も同如小あり

○番町麴町元山王水田町橋本町小川早渡河甚渡田町辺の祭他

其葉葺を止する ○七月二日連舟師室村仍氏奉 五十九才

○七月廿七日仲の町小焼祭をかひ

角町中百字屋の名妓を葉としりりもの
享保十一年年二月廿九日死せり今年年
三回忌小いり公市中霊をまつとて仲の町儀や虎文揚登町松屋ハを葉とすりり者
びりりをすりりむ娘ハ切子と有りありと小川被差奇巧あり在葉とすみりり
ありりとりのことと葉葉追長神さりとりの
ゆ葉葉の上より叶ぬ人地ありりきせり

○八月廿日夜より九月二日二日如大風を為ありて此より遠く

橋和泉橋新橋柳橋二日の夕方流着る二日朝も雲橋中野

二十六間切流也新大橋橋の方早二間程切る永代橋八番法の中

あり古橋枕流り下管法葉の内橋き西六軒橋ありひりり小石川

流甚と橋り新小橋流も同白山崩きて上ありの白塔標る前遠流

門島平橋の二橋流損すと門と神田葉秋十一月不あり

○十二月由桑名川堀廣うらぶ堀小石川小日向迎大木の所おとし
自中あつぬむすあり

○九月晦の儀所降後好義齋率 名邦達 桑岳寺小兼

○十月に日蓮谷日宗寺小鬼子母所像を安座す 日法上人他縁念 住人藤田末孫末

○江戸社社畧記刊行 荒井志敷 編

享保十三年己酉 九月閏

正月廿七日國學老跡於光海率 名良賢祿宮内七十一才 青山玉窓寺小兼以

○二月十六日版田町坂上武家方よりお火 金田宗及 田安門外於燒の

取用池ふ減る ○五月交辻國の鄭大威といり 合んる

源氏 去年六月長崎(北)牡二匹を獲む北へ長崎お移りて覺る今年に月牡二匹を大坂へ 牽來り同月系於(入)大内(牽)く五月廿五日に江戸を往りて牡(中)所ありし(實)際(中) 小覺る(中)覺(中)今(中)中(中)社(中)室(中)取(中)り(中)あり(中)この(中)所(中)所(中)あり(中) 備(中)録(中)の(中)所(中)あり(中)あり(中)中(中)世(中)小(中)覺(中)來(中)り(中)の(中)所(中)あり(中)あり(中)

柿の葉をうけしものまじりて身をもむるもまじりて 鳥丸 老葉に

この所中村三迫り編の表の頁、白梅屋より表頁珍記又編者西家志たといやま
る所せり、江戸の俳人仙宿より白小、今やひく富士の裾野、うこつむり
山王所を礼の所統町より大家の儀り
物をいふ事、この所のまねびありといり

○十一月廿二日書お返於保考率 早野警候前 祿清助 甚務首徳雲より不兼以

同十五年 庚戌

正月江戸町火消に十七組を十組小定し 目下お葉の形あり纏の吹流 止ておま人を待りこの所小組に十

七組あり後小本組を束て四八組と成小帳止く返く
小纏を束り大纏小まとひとも并り張る流たり

○二月十八日原見十方堂の事、自体終 トキキリ 九十方本に斤町 流光より不兼以

○二月在醫室證廿五冊刊行

○二月春坂氷川江神合并益の移さる社法建立あり廿六日迄有

○三月八幡文被損ありし所へ新多七老字を信りて五月十五日より

日教五日のる地内おれて勅化能具以 棟敷令二つより一を来
一人分浪二つあり

○五月金丸銀丸先年の通り通用済免

○六月十六日辰野軒志賀隨翁年 百八十三天徳寺
中野院小集

○八月廿九日大凡為海川世三ろ星吹浪も築地大あり

○十一月鷓鴣あひづりやまひの病を中る鼻とより上悪くあり

○冬より翌年暮ふより麻疹流行 身うち白牛
洞をぬる

○夏より那良こねま派不新田を築く 去る戊申年中迄不新田を築く
一は田舎者源友清といふ老を築く

あつりしを面を令せしう今年も又 命ありて善於其又年流流と恨みはるの司り
あくの切を立たりしは以見沼の形川不船をせせんゆとせしう一は免一はひ高保十六
是立橋玉の二形の内あり古西の地をぬひは戸那田川の辺あり邸地をぬひて凡派川運
漕と事お令せしきなりしを西をぬぬと云はる子孫弘化に年の得ふに小山田
与清是
なり

享保十六年 辛亥

正月八日狩野栄川古信年 二十六才

○二月十五日為中大凡午下刻日自甚武家方よりお火を辺のこは

玉初星も焼失関はあま町改代町辺仲里赤坂の社を武家組

取去り込市谷辺邊坂上下に焼燬すて於焼圓時魏町之丁目續

番町一飛火半焼法門布より法塔燬す以并橋田院の實辺法

彦藩邸虎御門幸橋町の焼忠定社あり久保町芝は通町筋并

明宮家の後池海辺ふあり暮六時終る武家町存す社燬す

延焼あり ○五月廿一日官儒安見晚山年 名元及称文年
麻布若原と集

○七月十二日茶人野田研翁年 名久忠極集あり
若仁古小集

○八月十一日夜より十二日辰八時まで大凡十七日夜并九月二日大

凡為 ○九月十七日狩野栄川の憲信年 二十才

○十月十二日蓮上人百廿九年忌法會あり

○十一月十二日耳落降えんろく ○十一月十九日儒師右田希賢卒希賢八二本板

義致也
小葬也

享保十七年 壬子 五月

正月十二日儒師右野極齋卒名養子孫政平
石河津島子小葬

○二月十二日宅家下青松寺より新橋を焼同日小石川白山

より火松平甲か彦郎ふりり

○二月増上寺柵門内子聖指規勅請

○二月廿八日浅草本願寺門前より火浅草下谷辺寺社所方

焼亡は焼地系火除のつめ小橋屋町藤原町福富町等此日
町屋を 百よき地田平井智地を下りぬ

○非田原非橋門再建立町より非田の徳入利の二か一を見送り合三町ぬせ
収むを服侍家町人より寄附をりて建立

○浅草寺命院より上方新田医事職事所宛牒あさひ

○岩形地院より同島より宛牒ききん えきまの

○六月十二日難産坊凡率八十六才西幸教七件
浅橋寺小葬 ○七月廿二日儒師平野

金華率四十五才孫源吉也約此五物店
華老より小葬以文雅先中と後

○冬洗翰名人桑本光寿率八十才非田小居せり翰の空とのみ酒味を丹練し
より近世の好具ふりて今も光寿の流方を考

○若くは物産法形見入る法入編写中あり寄安
兼意の以り世上の風俗を述ぶる也

○江戸抄子初輯成七卷刊行兼意正原の編あり後成初ふりり其勇
恒豊初冬抄補正再刻し今以て世に知らる

同十八年 癸丑

其浅草寺奥山小橋樹を栽 ○江戸系酒林信元日暮里洗汚者

小控んで十二景の詩あり十二景の復原系陰 後父遠新 鷗野河夕照 権左村
田家 玉子源林 平塚落戸 鶴巻秋月

鎌井夜舟 墨巖山妙雲 寺島川瑞帆
中里勉庵 西条曉嵐

○富士の老翁みろく福狗ふくくといふ者信許しんこすして定まらざる事二十三日

終つひつ小今年六月十七日山の七八合目あ中ちゆうて絶死たつじすす 青山海峯より
升墓あり

○三月より圓向院まへむかひのいんより城戸しろどの歌詠うた新迦しんか如來にがひ開帳ひら

○去年より續々つづ續々つづ○七月上旬より渡篠わたしの天下てんか小引こひきする十日十日

大活おほいそ活いそ来き絶たつつり業わざあて疫や神かみ乃な形かたちを造つくりてを送おくるとて鉦かね右みぎ

鼓つづみをああつつと年としつれつる海うみ辺へふふる○肌き腫しゅ小こ引ひ引ひ救きうををあある

○七月八日より藤土ふじつち照てい神かみ本ほん代しろ親おや世よ名な冥みやう帳ちゆう 八月廿八日
目まで

○八月六日あひのりよこや金かね彫ぼう工こう換か谷や宗そう紙し卒そつ 東本願寺中
智恵寺より昇

○八月十九日あひのりよこや昼ひるより夜よる小こ入いるまく大おほ風かぜ吹ふくをを潰つぶす

○川崎かわさき水みづ長ながまるる親おや意いの靈れい龜きをを海うみ中ちゆうより上ある

○九月くわがつ狩かり野の養やう堂だう信しん唐たう土つちの鞍くら鹿か馬まをを画えくる歌うたをを儀ぎ宗そう寺てら

掘ほく○江戸えど名な務む志し云い江戸えどの町まち人ひと加か賀が長なが兵べい衛ゑい尉ゑう忠ちゆう義ぎを

掘ほく○江戸えど名な務む志し云い江戸えどの町まち人ひと加か賀が長なが兵べい衛ゑい尉ゑう忠ちゆう義ぎを

○十月じゅうがつ後ご系けい徳とく金かね徳とく社しゃ巴は市し布ふの歌うたをを撰せんりて今いま有あるは徳とく徳とく村むら長なが子こ高たかきくととり

○江戸えど名な務む志し云い江戸えどの町まち人ひと加か賀が長なが兵べい衛ゑい尉ゑう忠ちゆう義ぎを

世よををああつつと年としつれつる海うみ辺へふふる○肌き腫しゅ小こ引ひ引ひ救きうををあある

享保十九年 甲寅

二月にがつ廿にじゅう日にち津つ守しゅ谷や村むらの浪なみ鯨くじら二にツツ流ながるる 廿二日
あまほ橋辺
廣場
小舟

て着きせ物ものととり○二月にがつ廿にじゅう日にち儒にゆう作さく田でん中ちゆう榮えい後ご卒そつ 二十六日
山谷
臨宮院
小葬

○二月にがつ廿にじゅう日にち弘こう法ぽう大だい師し九く百ひゃく年ねん忌ぎ 生かみ
法
後
を
後
く

○二月にがつ廿にじゅう日にち紀き伊い保ぼ全ぜん文ぶん左さ衛ゑいの死しす 西園
紀
文
大
師
之
御
号
子
山
と
云
其
巖
寺
中
降
宮
院
小
葬
あり
晩
年
深
川
一
の
号
居
乃

例れい小こ居いととり

○七月廿五日世よ(毒の降る)り小晴して井戸(蓋を)おひ

○八月十二日官儒室鳩巣宗元生卒 七十八才通称新助波河意用賀町住
大坂護持院東農家の後小葬以

○九月十日御所桑忌貞休卒 六十五才卒所
法喜寺小葬以

○十一月官医至月(之)英法某法の七宝兵舞丹を弘む

○十二月奉新小法米流建

○大坂世に作祀前撮江戸(下)り是より義孝支那の澤田陽太小
折るる祀前撮江戸(下)り是より義孝支那の澤田陽太小

享保廿年 乙卯 二月至

二月廿日浅井家長(之)子(之)回忌浅井家の齋居(之)牌を建(之)修(之)
有條小(之)傍撰あり

○二月十九日儒師山田麟澳卒 名弘嗣孫大依
谷津南山寺小葬

○二月本石町(初)人冬(海)を置(之)町(医)岩(水)玄浩(杉)山(養)元(交)
冬(を)制(之)同(本)中(湯)仙(見)人(冬)獨(冬)湯(を)弘(む)

○角(融)人(丸)山(校)方(長)清(光)終 ○松(板)の(名)号(号)回(向)院(光)宗(悧)

○同(所)来(下)總(新)水(村)宗(悧) ○東(叡)山(小)在(祥)天(宮)建

○五月七日書家依(之)木(文)山(卒) 七十七才増上寺中
澤蓮院小葬以

○五月晦日儒師齊(之)貞(疾)鳩(卒) 七十六才新橋
正源寺小葬

○七月二日雲(天)を(覆)ひ(大)風(瓦)を(吹)し(所)々(家)屋(を)損(之)壊(之)流(卷)
あり(と)り(小) ○秋(淫)川(八)幡(宮)の(境)内(小)御(所)祇(堂)を(後)改(良)神(中)

て(神)小(宗)あり(小)祠(を)建(之) 吉田家小中緒あり(一)族(之)より(小)祇(堂)建(之)る(小)享(保)十八
年(四)月(廿)二(日)と(早)雲(寺)宗(祇)法(師)墓(の)側(并)葬(之)

○十月麻(布)色(燒)亡 ○青(木)本(宮)陽(祭) 名(宗)を(世)承(り)て(母)葬(を)

裁 ○冥(東)也(也)

○十二月廿二日細井廣海卒

七十八才等々カ村波致し不葬以門人平林
傳信友家之鳥不葬友冥思慕之并親和

此年同記事

同日思之懽と宗判金毘羅指現社造營

或元滿社に宗判古くよりい
時代再興ありてより清人も

増しけり之實然元年八月九日百
四十坪境内寄附ありと云々

○葛西半田稻新社平井重天文を奉る旨

あり○江戸中尾葺 浄免あり

○津野小槻樹を栽しあり○津井植木屋作を備百坪の楓を

養ふ○武家より繕上平家保の以てり始りて一樹同答ふんえ

たり 但し裏付上中ハその
心おとろいんえりてと

○津田沼神社社奉能ハ大永中より連綿たり○享保六世年葬

意并道具を収とらへ倉庫新焼せりたりありて終り

周小之中古多被不履甚と号し一り物をかゝり掃風造りの履根は本柱の上下裏
あり表履は漆塗未あり中平小入形系花未のありありあり是を不履と号し一り
を賣りてを合せて二十日五友を限りとけ今のが一平の賣りも是よりお價の紙一
圓價未とあるを以て一この履意の亦不附系と号し所の新り物とせしあり
かゝる履事ありて踊甚の心面白く一うけをあらうひ女子二人あつてびて物をけし
らゝし二味せんを深は束のちりめんへ紐結の裏つけしるを紙をうむる踊子のをか
踊る節を教へて後日履の内より撈証の日履の上の方へ紐あて物より男子頃二味紙を
あけしめたるは扇獅子とり物をうむるこま安永以後の
風俗ありとて天保中終りてを教打板田を立所のをあり

○此時代書が 忌林竹 細井廣海 春井江水 傳東湖 作と木又山
号を以てしり ○其末禪守後系高作号芙蓉と云知かして宗

元の体を刻意し待他不妙を將たり後但疎及び南郭小學んで詩
風を愛し以て年集を以て後集しり

○享保中折内春波東於子より國字を教授し元々中平を傳る

○此頃廣海も境内小於て靈全といふの辻終義小就云を定く

人の美をとるありきともいふは佛のその本意なるありきなり
志道軒しどうけんのその具金を生じ出するものありといふ産地産地あり

○時計茶屋とけいぢや美屋みやより海うみる ○江戸中書坊花御ななふらばなごとてお尋らるる所後

ありといふお尋らるる所 ○浮世繪師 奥村文南おくむらふみなんの所所 奥村おくむら

仙せん花 鳥居清伝 同清伝 迎後助五席清喜 室川吟雪房伝等

行ゆる ○浮うるより後宮古語こごを後撮享保の末京都よりとり一時小

羽はる この時を後撮り凡俗をまの如く髪と文金風とてまげの髷を雲と元孫もとまろ多く巻

の羽はるを忘る長き紐をせし小くむすむすひ下敷の齒はり

○半はん衣い帯おび 一家を以て別髪して故本梁はりまゝといふ 河か東とう筋すぢ 半はん衣い帯おび 河か東とう筋すぢ

○松しょう清せい衣い帯おび板いた田でん等らに高たか小こか金かねに高たか小こ小こ咽のど流りゅう行ぎょう

○大だい豆まめと舞ま小こううの流りゅう行ぎょう 中なかつ村むらをまぬらしるといふことはなかの筋すぢの地なり

○美み手てお撲ぶく流りゅう行ぎょう 花はな女にょ金かね菊きくかときき

○栖せ系けい角かく等ら湯ゆといひ者もの振ふ夷いといひ 帆ほ柱ちゅうをまく切かは早はやく朽る腐

久ひさしくくくくくくく止とむ 大だい江え戸と止とむ 小こ川がわ入い江え山やま稻い行ぎょう社しゃ小こ享きやう保ぼ乃の

はまやちか居いもあうりり今いまの町まち並ならやあままりは社しゃ里り民たみのおかか小こ在あ

しを遊あそび上あ人ひとの化けの時とき上あ人ひとおととくく初はつ清せいせりとあり

○大おほ久く保ぼ七しち面めん文ぶん列りつ由ゆ法ぽう若わく等らいむりは梅うめの名所ところありく甚し毎まいを後

此こ所ところおお提だい親しんせりま甚し時とき山やまと号ごうするもこの由ゆありし享きやう保ぼの江の末すえ

梅うめも疎そりしくくと遊あそび親しんの人の稀まれありし中なかつ宿しゆく下げ店てんより

○連れん雀さく町まちの筋すぢ遠えん法ぽう門もんの内うち頂てい田でん町まちの續つづきありし所ところ所ところ廣ひろ場ばとありし

今いまの西せい引ひけいくくの享きやう保ぼのとりありしありし

○享きやう保ぼの末すえ横よこ山やま町まちの後ご井い屋や飛ひ兵べい等ら行ぎやう煙えん村むら地ぢ先せん字じ小こ二に子こ町まちと

号は乃々而小陰漢を完蓋して今加蓋新田と云ふあり又新田を改蓋
とり小りの完きし陰漢を改蓋し情彩田とり小

○世初武相の界は陰板小夜母小母の音あり苗教は人の声
中々中々老人の声一人あり近き江をとりも父子は人あり一草

る不審しとて翌日小母小母り止
大江戸妻
秋丹か

元文元年 丙辰 五月七日改元

正月仁風一覽上梓公布あり ○後忌令官板

○正月九日茶人行忌丸内率
号丁区 三痛
如來寺小葬儀

○京葉生姓光波寺張子清新回向院小母宗性

○同真如堂奉子湯小社地小宗性 ○五月小字令銀通利六月

引替始り 文令銀 ○六月廿二日園林行率
初梅と号出を居り
陰寺と丁宗安と宗華

○七月下旬より東の方小布如早あり
表五時
以あり

○八月雨川 わき 大就寺小兵道子の尊南海補陀山結海寺立石
ふて
おざん

親世書像を写して碑を立す
素人初伯喬寫し
加蓋氏造立

○八月晦日古等り仲率
八十一才等
陰江寺小葬儀

○十月小梅村小母浅を精させり
背文小の字あり今年
猿江寺小精養あり

○十二月江戸大雷 合運 ○十二月小く大願ひ多く死に

○武流地々考梓行
徳毛屋上黄村百冊
田原屋を而義章作 一りの日記梓行
叔法編

同二年 丁巳 十一月四

二月十六日より庚寅考親世書宗性

○二月廿九日同白小動する新長谷寺の時精儀表は撞初めあり

○二月廿五日益時外山の辺より流おくる協作より小徳田町をりて

養子一人亦不損也○五月二日下谷八軒町より火火は徳士町をこ
上野廣小池池の端東敷山慈眼堂に火坂本合於其の端まで
焼く○七月十九日書加池永道雲率又其甚家則を長くは
後系抄りて小華也

○八月川に管光と云ふ池魚小雁りしりて而より再建の奉加まうが

をもちむ男女老稚日毎小募縁の界をうへひ証をたしりし中

を群行して施放を募る九月小より信止せしる甚長生此の

奉加の事を撰まるの文あり則此生之文集小載しり此受而自けま
とられに記さる

○飛鳥山あせうの榎樹を栽しりし同所一碑立吟風師文を撰合編
任職

宿衛修終の建々雨之まふ川の急流
の地急ふよりては以より名つひくま一也○八月廿日儒師宗重也稱志右史
臣倉成行も華

○飛戸又源川とらきか小宗本川より鑄鉄あり小宗本川より鑄る所の丸鉄

表の輪或ハ背まがん面小川の字あり

○十月十日夜露星月を貫く東より月の中
入り南方小あり

○十月七日世上一同小煙のやう吹かし火事の如し此節暖氣ぐんき

中々筆せし梅花咲○同十月十二日二世英一燦率通稱長八津川
陽蔵も小華

○十二月十日水府族儒師安あつこ横澹泊率号老牛居士五十二才
あり舞水也中あり

○薩摩芋此ころより追く弘まる室磨小よりて上総中総生解

むくあく飛る

元久二年 戊午

二月朔日夜五時以光物飛ぶ

○二月廿九日儒師阪岡東溪率名陸奥 陸奥
本流も小華也

○二月廿七日書家岡秀竹率林竹の田力名義等稱持率
後系抄りて宗安も小華也

○五月賀忌名居建後系抄りて
本流も小華也○青首儒師入江大華率久後宗も小華
下谷常林も華

○五月十日儒所徳力恭軒卒

号有隣日暮里南泉子小菘氏

○夏内山他

○七月廿七日郷人源川湖十卒

六十余才一号老龍山若宗林子小菘

○洞房遺篋梓行

庄司栲室也

元文四年己未

今年^{まのせい}冷泉^{せいせん}為久^{ひさひさ}市中向の折筋^{せきすぢ}飛鳥山^{とりのやま}の梅を斫り^きりて

折枝^{せつし}のよき者^{よきもの}見^みるに^にあす^{あす}山花^{さんか}の^{ところ}の^まも^も知^しる^{まじ}

○うい牛^{うし}津^つ前^{まえ}王子^{おうじ}権^{けん}親^{しん}家^け信^{のぶ}○回^{くわい}向^{かう}院^{いん}あて^て二^に月^{げつ}辛^{しん}未^み卒^{すつ}家^け信^{のぶ}

○本^{ほん}所^{しょ}押^{おし}上^{の上}あて^て鉄^{てつ}板^{ばん}を^て鑄^こ又^{また}平^{へい}社^{しゃ}新^{しん}因^{いん}あて^て澆^{じょう}液^{えき}あり

○二^に月^{げつ}己^じ未^み日^{にち}神^{かみ}田^た池^{いけ}神^{かみ}中^{なかつ}より^{より}お^お火^ひ柳^{りゅう}を^てま^まて^て焼^や亡^つ

○十^{じゅう}月^{げつ}廿^{にじゅう}日^{にち}を^てり^りし^しあ^あ後^ご新^{しん}原^{げん}瑞^{ずい}瑞^{ずい}を^て信^{のぶ}る^る○名糸^{いと}敷^敷拂^ひ底^{ぞこ}小^こ付^{つけ}

下^{した}池^{いけ}の^う出^で拂^ひ米^{まい}あり○十^{じゅう}月^{げつ}廿^{にじゅう}日^{にち}儒^{にゅう}所^{しょ}室^{むろ}勿^な初^{はつ}卒^{すつ}

名名^な洪^{こう}漢^{かん}大^{だい}塚^{つか}山^{さん}鹿^か留^{りゅう}小^こ菘^{そう}氏^し

○十二^{じゅうに}月^{げつ}晦^{まい}日^{にち}日^{にち}暮^ぼ里^り暮^ぼ福^{ふく}あて^て自^じ語^ご落^{らく}生^{せい}生^{せい}然^{ぜん}も^も小^こ菘^{そう}氏^し乃^{なり}

真^ま如^{にょ}を^てあ^あ一^{いち}踊^うり^り担^{たん}ひ^ひく^く身^み目^めを^て疑^ぎせ^せり^り同^{どう}日^{にち}己^じ未^みあて^て終^{しゅう}了^{りょう}

し^しも^も自^じ今^{いま}え^えたり^り墳^{ふん}墓^ぼも^も同^{どう}す^すあり^り
自^じ語^ご落^{らく}先^{せん}生^{せい}通^{つう}孫^{そん}山^{さん}清^{せい}三^{さん}節^{せつ}を^てあ^あり^りし^しも^も小^こ菘^{そう}氏^し乃^{なり}の^の和^わ号^{ごう}あり^り性^{せい}賢^{けん}氣^き随^{ずい}あ^あり^りて^て才^{さい}官^{くわん}を^て稱^{しょう}す^すた^た小^こ名^なを^て好^{こう}む^む能^{ねい}格^{かく}を^てと^とく

し^して^て甚^{じん}門^{もん}不^ふ起^きり^り風^{ふう}俗^{じやく}文^{ぶん}集^{じつ}二^に冊^{さつ}不^ふ思^し居^こ勞^{らう}に^に於^おけ^け二^に冊^{さつ}刊^{かん}行^{かう}せ^せり

同^{どう}九^く年^{ねん} 庚^{こう}申^{しん} 七^{しち}月^{げつ}至^し

回^{くわい}向^{かう}院^{いん}あて^て信^{のぶ}州^{しゅう}若^{わく}光^{くわう}寺^じ如^{にょ}來^{らい}家^け信^{のぶ}

○伴^{ばん}勢^{せい}小^こ舟^{ふね}の^の阿^あ弥^あ陀^だ池^{いけ}戸^こあて^て家^け信^{のぶ}○二^に月^{げつ}十^{じゅう}日^{にち}南^{なん}郭^{かく}の^の二^に男^{なん}

愿^{えん}卿^{せい}瘕^{せき}患^{わづら}小^こ羅^らり^りて^て卒^{すつ}

十七才^{しちじゅうしちさい}稱^{しょう}松^{しょう}之^の所^{ところ}と^との^の小^こ舟^{ふね}海^{かい}中^{ちゅう}小^こ林^{りん}院^{いん}葬^{さう}す^す也^や知^ちり^り神^{かみ}童^{どう}の^の名^なあり^りし^しを^を集^{じつ}て^て淨^{じやう}信^{しん}集^{じつ}と^と云^いふ

○七^{しち}月^{げつ}朔^{しやく}日^{にち}書^{しよ}家^け隆^{りゅう}濟^じ東^{とう}海^{かい}卒^{すつ}

久^{きう}維^い章^{しょう}根^{こん}岩^{がん}若^{わく}性^{せい}す^す小^こ菘^{そう}氏^し

○郷^{きやう}人^{にん}清^{せい}乃^の紹^{しやう}波^は卒^{すつ}

二十六才^{にじゅうろくさい}法^{ぽう}華^か稱^{しょう}念^{ねん}す^す小^こ菘^{そう}氏^し

○九^く月^{げつ}一^{いち}日^{にち}あ^あ後^ご新^{しん}原^{げん}元^{げん}祖^そ宮^{みや}古^こ洛^{らく}

あ^あ後^ご塚^{つか}死^し

○人^{ひと}を^をと^との^の小^こ菘^{そう}氏^し輕^{けい}業^{ごう}を^を更^{かへ}へ^へり^りて^てあ^あら^らか^かぬ^ぬ一^{いち}室^{しつ}七^{しち}月^{げつ}

信々 ○十月廿六日在湖濱作寂 小石川二百坂慈照院小
葉を能くのせえあり

此年間記事

こがね 小金井村 多摩郡 小和次吉野常州櫻川の櫻の葉を裁添る 始寛永承
のむら

極きをみひ 極きをみひ一雨あると一が庭草の ひまても於極しめられしころみ ○武蔵志料ふ云鈴ヶ森八幡宮境内

ある所の鳥名の麻布雜多町の先古川と云ふ小松年在て奪ふを

号に今もその名を奪ふと号ふ元々の以鳥の葛原已う名を世小

知くせんと此名を於の森み極しめしをんと改しあり書家の座

名を好む加ありしと云く

○ひらね 平林傳信が 信林 父と鎌倉清方連つとて室町の帳面を清方連つ

書を能くして大福帳の上書して賣事書首いありしは清方連つを

そしめたりは江戸中商家の大方彼の上書を求むと傳信と

細井廣海門下入能書のせえあり

○りん 石巻の藤操松を有る市松形といふ舟は舞妓は若佐村川市松

好むと云ふしつなり ○舞子の花めんさしを有りあり

寛保元年 辛酉 二月二日辰元

正月廿二日書家古海友と交改辰年 七十一才号友赤
車坂大冬未葬也

○二月九日後後氏十二代某家某年 五十四才 ○二月吉原仲の町へ櫻

を裁そしむ 此後寛永三年の辰より
裁て年例といふあり ○二月朔日雲光院和尚要河寂

奉堂再建 ○せ 永成の中鎌倉の満文某年 六十四本
源廣 ○七月十七日傷作佐後周某年

并 ○七月廿二日新井宣輝年 白ふ
男 ○十二月廿五日拾像流剣術祖

○の 石巻の藤門年 約此言林とふ墓あり舞世の舟形付てあり
和佛ありしとまりて何うせんあるなりとも候ものふと云

同二年 壬戌

正月下旬より東方へ曉七時以^ち禁^せり 長井一尺
五寸程

○六月廿日離人早於巴人率 六十六才

○七月廿八日より為^り陸續八月朔日益八半筋より大風が夜を

止^せず を 郊大水漲り を 本新澤川人家を浸^め 大川通りを

勢^り列^し を 必^ず橋の法善法中より杭を流^し 永代橋新大橋損^つ

隅田川土子切を葛箱へより押入千石土子切を五日又利根川堤

切を^り を 小舟を^り 橋の斷死 を 官^府より を 法助船を^り

く を 敷^き を 小舟を^り 建^つ を 食^料を^り を 八月九日又大風が^り

中旬より引く雲東南部にて漲り を 法善法中より を 法善法成^り

修治法成の碑文
後元高しを撰を

○五月廿日より を 法善法中より を 法善法成^り

○十一月故実志本邑を敢率 其泉無
小集以

寛保三年 癸亥 己月

二月朔日より上野清の星親世者 盛久
おんき 冠帳 ○二月九日

将乳山聖天宮冠帳 ○同日より獲ふ を 河内 を 葛井寺

親世者冠帳 ○二月十五日より 穴八幡宮内親世者冠帳

○二月十五日より 茅切町某所境内より井の尻糸才天宮帳

は 氏友人 を 蘇子より を 某帳花より を 冊子を惜^し を 寛保二年より 天保八年迄の

を 某帳 を 某記せり を あり を 某帳 を あり を 某帳 を あり を 某帳 を あり

○花巻山の花を押花 を あり を 寛保上人より

冷泉 を あり を あり を あり を あり を あり

○二月朔日より 法善法福あり を 法善法水田表院親世者

同月三日 日暮 皇孫 元之 人 九 郡 守 帳

同月三日 日暮 皇孫 元之 人 九 郡 守 帳

同月三日 日暮 皇孫 元之 人 九 郡 守 帳

同月三日 日暮 皇孫 元之 人 九 郡 守 帳

同月三日 日暮 皇孫 元之 人 九 郡 守 帳

同月三日 日暮 皇孫 元之 人 九 郡 守 帳

同月三日 日暮 皇孫 元之 人 九 郡 守 帳

同月三日 日暮 皇孫 元之 人 九 郡 守 帳

同月三日 日暮 皇孫 元之 人 九 郡 守 帳

同月三日 日暮 皇孫 元之 人 九 郡 守 帳

同月三日 日暮 皇孫 元之 人 九 郡 守 帳

同月三日 日暮 皇孫 元之 人 九 郡 守 帳

同月三日 日暮 皇孫 元之 人 九 郡 守 帳

同月三日 日暮 皇孫 元之 人 九 郡 守 帳

同月三日 日暮 皇孫 元之 人 九 郡 守 帳

此年同記事

同月三日 日暮 皇孫 元之 人 九 郡 守 帳

同月三日 日暮 皇孫 元之 人 九 郡 守 帳

同月三日 日暮 皇孫 元之 人 九 郡 守 帳

同月三日 日暮 皇孫 元之 人 九 郡 守 帳

武江年表後編

從延享元甲子年
至嘉永元戊申年

四冊出來

嘉永二年己酉十月刻

大坂心齋橋通博勞町

河内屋茂兵衛

江戸日本橋通三丁目

須原屋茂兵衛

同 淺草茅町三丁目

須原屋伊八

發行書林



